

インターバンクの声（2017年3月14日）

市場は14-15日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げをほぼ織り込み、利上げを確認した後もドルの大幅な上昇はないとも見られているが、それでも対円での下値は114円台中盤に留まっている。

やはりFOMC参加メンバーの金利見通しをドットで示す、いわゆるドット・チャートが気になっているのだろう。これまで年内3回の利上げが見込まれていたが、今回の見直し変更によっては年4回になる可能性があるからだ。いくら今回の利上げが織り込まれているとは言え、年4回の利上げ予想になれば話は変わってくる。

それだけではなく、16日は2018年度の米大統領予算教書の議会提出期限、オランダの下院議員選挙や日銀の金融政策決定会合も控えている。

昨年あたりから、市場参加者のほとんどが英国のEU離脱の是非を問う国民投票、米大統領選挙、米利上げのタイミングなど、同じ材料に注目しながら相場に向かう時間が続いてきた。それが少し前から注目する材料にバラつきが出始めて来たような気もする。

日本時間、木曜日の未明頃からの相場展開が、今までとは少し変わってくるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。